

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**大学院生研究**  
**2011年度研究成果報告書**

|                   |  |                |               |
|-------------------|--|----------------|---------------|
| <b>研究科名</b>       | 立教大学大学院                                      | 21世紀社会デザイン研究科  | 比較組織ネットワーク学専攻 |
| <b>研究代表者</b>      | 在籍研究科・専攻・学年                                  | 氏名             |               |
|                   | 21世紀社会デザイン研究科比較組織ネットワーク学2年                   | 南里 隆宏          | 印             |
| <b>指導教員</b>       | 所属・職名  | 氏名             |               |
|                   | 立教大学経営学部教授                                   | 笠原清志           | 印             |
| <b>自然・人文・社会の別</b> | 自然 ・ 人文 ・ 社会                                 | <b>個人・共同の別</b> | 個人 ・ 共同 名     |
| <b>研究課題名</b>      | 政治システムへの NGO の効果的参加と社会構造の関係性：フィリピン地方都市を事例として |                |               |
| <b>研究組織</b>       | 在籍研究科・専攻・学年                                  | 氏名             |               |
|                   | 21世紀社会デザイン研究科比較組織ネットワーク学2年                   | 南里 隆宏          |               |
| <b>研究期間</b>       | 2011   | 年度             |               |
| <b>研究経費</b>       | 200  | 千円             |               |

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、フィリピンを事例として、NGO が政治システムへ効果的に参加することと、NGO の行為に影響をおよぼす社会的環境、すなわち NGO がおかれている状況や NGO を取り巻く社会構造との関係性について因果的な説明を行うことを目的とする。ここでいう「効果的な参加」とは、一過性のものではなく、NGO が持続的に政治システムへ参加し、問題解決につなげていくことを指す。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ NGO ] [ フィリピン ] [ ガバナンス ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本年度実施した研究活動は以下のとおり。

## 1、予備論文の執筆 (2011年4月～2012年1月)

本年度は、以下の部分の執筆を行った。

- ・フィリピンにおける NGO の定義、規模・概要、NGO の政治システム参加にかかわる法制度、政府と NGO の連携の枠組みなどを分析した。
- ・フィリピンの社会発展を「スペイン植民地時代」、「アメリカによる統治から日本軍の占領まで」、「独立からエドサ革命まで」、「ポスト・エドサ期」の4つの時期に区分けし、各過程で NGO が果たした役割を時系列的に考察した。
- ・フィリピンの NGO が現在直面している課題について、NGO の「社会的受容度」と「組織力」の2つの側面から分析した。
- ・前年度に作成した分析枠組みを用いて、ナガ市およびセブ市を対象に事例調査を実施した。
- ・一連の調査分析結果を基に、NGO の効果的な参加と社会的環境の関係性を考察した。

## 2、現地調査 (2011年8月)

2011年8月14日～21日の間、フィリピン・セブ市およびナガ市を訪問し、関係者(研究者、NGO、住民組織、政府関係者など30名程度)から聞き取り調査を行うとともに、関連分野の文献を収集した。なお、指導教員である笠原教授も前半部分(セブ市)の調査に同行した。

## 3、2011年度成果

本年度の研究活動の結果、予備論文を執筆し、1月末に提出した。2012年2月に口頭試問を受け、無事審査に合格することができた。予備論文の概要は下記のとおり。

第1章では、本研究の主旨・問題意識に加え、フィリピンの NGO セクターに関連する先行研究について触れている。第2章では、本論文の分析枠組みについて説明している。本研究では、対象とする NGO 活動、すなわち NGO が政治システムへ持続的に参画し、地域社会に内在する諸問題を政策課題として提起・争点化し、法制度化などを経て問題解決に繋げていく一連の行為を社会運動の一環と捉え、NGO の効果的な参加と NGO 活動に影響を及ぼす社会的環境の関係性を分析するにあたり、社会運動研究の先行理論や概念を活用する。よって本章では、社会運動理論の変遷と推移を整理し、それらを本研究で取り上げる NGO 活動に適用させる妥当性について考察したのち、先行理論を基に本研究の分析枠組みを提示している。

第3章「フィリピン社会と NGO」では、NGO の定義、規模・概要、NGO の政治システム参加にかかわる法制度、政府と NGO の連携の枠組みなどについてまとめたあと、フィリピンの NGO セクターの特徴について考察している。

第4章「フィリピンの社会発展と NGO」では、フィリピンが辿った歴史と照らし合わせながら、「スペイン植民地時代」、「アメリカによる統治から日本軍の占領まで」、「独立からエドサ革命まで」、「ポスト・エドサ期」の4つの時期に、フィリピンの社会発展に NGO がどのように関与したのかを時系列的に考察している。なお、ポスト・エドサ期については、特に歴代政権と NGO の関係に焦点をあてて分析している。

第5章「政治システムと NGO：現状と課題」では、フィリピンの NGO が現在直面している課題について、NGO の「社会的受容度」と「組織力」の2つの側面から分析を行っている。

第6章「事例調査」では、第2章の分析枠組みを用いて、ナガ市およびセブ市を対象に事例調査を行っている。2つの NGO ネットワークである Naga City People's Council (ナガ市) および Kaabag sa Sugbu (セブ市) の活動を事例として、過去約四半世紀の間に、それぞれ市のガバナンス向上や諸問題解決にどのような役割を果たしたのかを検証している。

「終章」では、分析結果を基に、NGO の効果的な参加と社会的環境の関係性について因果的な説明を試みるとともに、政治システム内での一行為主体としての NGO 固有の役割について考察している。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

本年度については該当なし。